

## ● 読書感想文コンクール 小学校低学年の部 ●

入選

石川 実怜（いしかわ みれい）第七小 3年生

作品名：クリとゴマを読んで

図 書：カモのきょうだいクリとゴマ

なぜクリとゴマの本を読んだのかと言うと、表紙のカモの写真が、かわいかったからです。わたしは、カモのことをぜんぜん知りませんでした。でも、この本を読んで、カモのことがわかりました。

はじめに、たまごのことです。たまごは毎日何度もひっくり返すそうです。なぜかと言うと、まわしていないと中身がからにくついて、ひなが育たなくなります。カモのお母さんや鳥のお母さんが巣の中で、もぞもぞうごいたり、おなかの下のたまごをくちばしでそっとつついたりするようにすると、中身もいいぐあいにまわります。

次に、おもしろかったところは、カモの兄弟もちょっかいを出し合ってけんかをすると言うことです。わたしも姉がいるので、しおり中けんかをします。人間が仲直りする時は、言葉であやまるけど、クリとゴマの仲直りは相手の目やくちばしのまわりを、こちよこちよとやさしくかむのがクリとゴマの「ごめんね」です。

わたしが一番びっくりしたのは、カモを家でかうことはほうりつで禁じられていることです。なぜかと言うと、クリとゴマは野せい動物だからです。だから、大人になる前に自ぜんに帰します。

さいごに、わたしが気に入っているところです。気に入っているところは、カモが大きくなると、まっすぐ見た感じティラノサウルスやドナルドダックみたいな顔になってきます。

カモを家でかうことは、ほうりつで禁じられているけど、この本を読んでクリとゴマを見たいな、カモをかってみたいなと思いました。